



PGM 世界ジュニアゴルフ選手権 日本代表選抜大会

2019年4月21日（日） 東日本決勝・最終日／美浦GC
大会結果のおしらせ

< PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 東日本決勝大会 最終日 >

◇最終日◇ 4月21日◇茨城・美浦GC（15-18歳の部男子6765ヤードほかカテゴリー別、パー72）
◇出場166人◇晴れ

< PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 東日本決勝大会 最終日 概況 >

IMG A世界ジュニア（7月9～12日、米カリフォルニア州サンディエゴ）の日本代表14人が新たに決まった。15-18歳の部男子は、第1ラウンド首位の竹原佳吾（東京・早稲田実業高1年）が75で回り、通算3オーバー147で昨年13-14歳の部に続いて2年連続でIMG A世界ジュニア（7月9～12日、米カリフォルニア州サンディエゴ）世世界ジュニア日本代表となった。男子ツアー「HEIWA・PGM CHAMPIONSHIP」出場権を獲得した。2位は1オーバー73をマークした芳崎陽紀（神奈川・法政第二高2年）が通算6オーバー150で、亥飼台（うてな、日本ウェルネス高2年）を1打抑えて2012年の9-10歳の部以来の代表を勝ち取った。同女子は市村 杏（長野・佐久長聖高1年）佐藤杏莉（千葉・麗澤高2年）宇佐美彩華（千葉・印旛明誠高3年）が通算14オーバーで並んでプレーオフに突入。1ホール目に宇佐美が脱落して代表を逃し、4ホール目で市川が佐藤を破って1、2位となり、代表となった。

13-14歳の部男子は吉沢己咲（群馬・藤岡北中3年）が通算6オーバーで優勝し、代表となるとともに、AbemaTVツアー「HEIWA・PGM Challenge I」出場権を獲得した。2位は通算15オーバーで並んだ平野誠一（埼玉・行田中3年）と亥飼 陽（ひなた、茨城・滑川中2年）がプレーオフで代表を争い、平野が勝ち取った。

同女子は高野愛姫（あいひ、東京・飛鳥中3年）が通算7オーバーで優勝し、初めての代表となった。3打差2位に、三明桜子（福岡・沖学園中2年）手塚彩馨（あやか、山梨・白根御勅使中2年）が並んでプレーオフとなり、三明が2年連続代表の座をつかんだ。



写真：

左 = 15-18歳男子代表の竹原（左）と芳崎
©IJGA2019

中 = 15-18歳女子 市村（右）と佐藤

右 = 13-14歳男子 吉沢（左）と平野

東日本決勝からの I M G A 世界ジュニア日本代表は以下の通り。

▽15—18歳の部男子

【1位】竹原佳吾（東京・早稲田実業高1年）=147

【2位】芳崎陽紀（神奈川・法政第二高2年）=150

▽同女子

【1位】市村杏（長野・佐久長聖高1年）=158

【2位】佐藤杏莉（千葉・麗澤高2年）=158

▽13—14歳の部男子

【1位】吉沢己咲（群馬・藤岡北中3年）=150

【2位】平野誠一（埼玉・行田中3年）=159

▽同女子

【1位】高野愛姫（東京・飛鳥中3年）=151

【2位】三明桜子（福岡・沖学園中1年）=154

▽11—12歳の部男子

【1位】橋詰海斗（新潟・栖吉中1年）=157

▽同女子

【1位】小林イリス（東京・女子聖学院中1年）=152

▽9—10歳の部男子

【1位】片野貴一郎（千葉・松戸東部小4年）=167

▽同女子

【1位】根田うの（北海道・大曲東小5年）=154

▽7—8歳の部男子

【1位】林田聖也（福岡・吉田小2年）=157

▽同女子

【1位】重原純奈（千葉・幸小3年）=161

※同スコアはプレーオフによる



13-14歳女子代表 高野（右）と三明



11-12歳男女代表 小林（左）と橋詰



9-10歳男女代表 片野（左）と根田



7-8歳男女代表 重原（左）と林田

©IJGA2019

< PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 東日本決勝大会 最終日 >

◇15—18歳の部男子◇最終日◇4月21日◇茨城・美浦GC（6928ヤード、パー72）

第1ラウンド首位の竹原佳吾（東京・早稲田実業高1年）が通算3オーバー147で逃げ切って優勝し、2年連続で世界ジュニア代表を手にした。2人目の代表争いは混戦となったが、73の好スコアで回った芳崎陽紀（神奈川・法政第二高2年）が通算6オーバー150で1打差の2位を確保し、2012年以來の世界ジュニア出場を決めた。

竹原は「去年は第1ラウンド首位で最終日崩れたので、今年もそうならず済んでよかったです。今日は1.5～2メートルのパーパットが5、6回入ってくれた」と振り返った。世界ジュニアに向けて「今年是有名なコース（トリー・パインズGC）でやれるので、どれだけできるか試してみたい」と話した。

第2代表は混戦となり、最後は2年前の代表の玄飼台（うな、日本ウェルネス高2年）がリードしていたが、インスタートの8、9番の上がり2ホールで連続ダブルボギーとし、1オーバー73をマークして先上がった芳崎が1打逆転した。「あきらめないで攻めたのがよかった」というように、6番で2メートルのパーディーを決め、7番では3メートルのパーパットを沈めたのが、結果的に効いた。「小4の時はトリー・パインズGCには開会式で行っただけだったので、夢のような舞台です。楽しんできたい」と、笑顔がはじけていた。

写真：上／15-18歳男子 竹原佳吾

下／15-18歳男子 芳崎陽紀

©IJGA2019



<PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 東日本決勝大会 最終日>

◇15-18歳の部女子◇最終日◇4月21日◇茨城・美浦GC（6330ヤード、パー72）

市村 杏（長野・佐久長聖高1年）、佐藤杏莉（千葉・麗澤高2年）、宇佐美彩華（千葉・印旛明誠高3年）の3人が通算14オーバー158で並んでプレーオフに突入。10番と11番を繰り返すプレーオフ1ホール目に宇佐美がボギーで脱落して、市村と佐藤の世界代表が決まった。代表に決まった2ホール目から緊張の糸が切れたのか、市村、佐藤とも連続ボギーで4ホール目に。市村がパーに収めて1位となった。

市村は「予選で1位になったときに『決勝大会では戦略的にやりたい』と言いましたが、戦略も何もなかったです」と振り返った。上位が崩れて、最終組から1組前の市村が27ホールを終えた時点でトップに。しかし、13番から3連続ダブルボギーとし、14番では池の中から打ったが失敗するなどあきらめかけた。しかし、他の選手もスコアを落とし、プレーオフの権利を得た。「地元の長野県には洋芝のゴルフ場もあるので、世界ジュニア対策をしてきたい」と話した。

佐藤は「ホッとしました。プレーオフは初めての経験だったのですごく緊張した。1ホール目の10番はきのうも今日もボギーにしていたんですけど、初めてパーをとれて代表になれた」と振り返った。「アプローチとパターでカバーするゴルフなので、世界ジュニアでもパーを積み重ねていきたい」と意欲を見せた。



写真：左／15-18歳女子 市村 杏、右／15-18歳女子 佐藤杏莉 ©IJGA2019

<PGM世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会 東日本決勝大会 最終日>

◇13-14歳の部男子◇最終日◇4月21日◇茨城・美浦GC（6928ヤード、パー72）

吉沢己咲（群馬・藤岡北中3年）が通算6オーバーで優勝し、3年連続ジュニア代表となった。第1ラウンド首位でスタートし、インスタートの折り返し時点で2位に5打差をつけた。「スコア的には余裕があったのでアンダーを狙った」と、最後は2位に9打差をつけた。「世界ジュニアでは去年（8位）は3位ぐらいには入れる感じでゴルフができた。今年は優勝したいです」と意気込みを見せた。

2位争いは通算15オーバーで並んだ平野誠一（埼玉・行田中3年）と玄飼陽（ひなた、茨城・滑川中2年）のプレーオフに。3ホール目、玄飼はアプローチミスもあって2メートルほどのボギーパットを残し、バンカーに入れた平野が先にボギーで上がった後、玄飼が外して決着した。平野は「小6の時にこの大会に出て、僕も世界ジュニアに行ってみたくて思っていました。今回はまさか行けるとは思っていなかった。うれしくて、顔がにやけているって、友達に言われた」と笑った。世界ジュニアに向けては「うーん、まだ何とも…（代表に）恥ないゴルフをしたい」と、まだ実感が沸いていない様子だった。



写真：左／13-14歳男子 吉沢己咲、右／13-14歳男子 平野誠一 ©IJGA2019